

第18回獣医学教育改革シンポジウム

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの 策定・改訂の変遷と今後の取組

山口大学共同獣医学部
佐藤晃一

- 獣医学教育改革の歴史
- 獣医学コアカリの策定と位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

- 獣医学教育改革の歴史
- 獣医学コアカリの策定と位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

日本の獣医学教育の歴史背景と問題点

－ 獣医学教育体制の推移

1971-1990 改善運動第 I 期

1949年 ・GHQから6年制勧告

1971年 ・日本学術会議が教育延長勧告

1976年 ・2年修士積み上げ6年開始 (再編整備は間に合わず)

1978年 ・文部省 6年制延長決定

1980年 ・文部省再編整備指導するが、学部長懇談会再編反対により頓挫

1983年 ・6年一貫教育実施・4年制博士課程設置 (東大、北大、私学)

1986年 ・獣医学協議会, 獣医学教育基準制定

1987年 ・国公立協議会, 再編案提出

1990年 ・緊急避難的処置として連合大学院設置

下火

諸般の事情により, 新制4年制大学として獣医学教育開始 (専門教育は2年間)。

8-10講座, 教員22-30名程度

教員・講座数かわらず。
国家試験18科目への対応困難のまま

18講座以上, 72名

教育時間数延長されるが, 教員数は変わらず, 負担大幅増。十分な実務・実習教育できないまま。



日本の獣医学教育の歴史背景と問題点

なぜ獣医学教育体制の推移

1997-2004 改善運動第Ⅱ期

1997年 ・大学基準協会, 「**獣医学教育に関する基準**」改定

最低基準は18講座・72名以上

1998 再編整備案検討の開始

2000年 ・**日本学術会議**が「我が国の獣医学教育の抜本的改革に関する提言」を公開
・農林水産大臣が「獣医療を提供するための整備を図るための基本方針」公表

遠山プランによる機運上昇

72名以上の教官が望ましい。準ずる基準として、当面18名以上の教授を含む54名程度の教官

2001年 ・第105回**農学関係学部長会議**で獣医学教育改善基本方針が承認

2003年 ・各大学で54名基準の再編運動展開。実現せず
・文科省が**国立大学における獣医学教育に関する協議会**開催

農学部長会議決定の獣医学教育の改善策の精神を基本に据え、自主的・自発的に最大限努力すること

2004年 ・協議会結論公表

独法化と共に自助努力が開始され、教育の整備は先送り



日本の獣医学教育の歴史背景と問題点

– 第Ⅱ期（2004年）までのまとめ

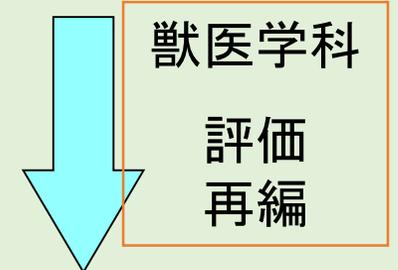
- GHQ勧告を受けることができなかった
- **第Ⅰ期**：1983年6年一環教育，1990年新制大学院設置の機会に講座・教員の改善が伴わなかった。
- **第Ⅱ期**：2001年遠山プランによる大学再編が頓挫し，獣医学再編も後退した。農学部長会議による決議を受け，文科省獣医学協議会の報告は，改革の必要性を強く主張し，再編の必要性を認めながらも，法人化という現実論の波に埋もれた

• **第Ⅲ期での目標**

第1段階：36名体制の充実と大学間教育協力体制の確立

第2段階：54名体制への整備。学生定員数の問題の解決
(例えば大学間の有機的協力体制)

第3段階：再編による72名体制と学生定員60～80名へ。



日本の獣医学教育の歴史背景と問題点

－ 新たな展開への発展

2005-2011 改善運動第Ⅲ～Ⅳ期

2005年 ・ 36名の教員体制を目標に精力的な活動が行われた（足固めの第Ⅲ期）

2008年 ・ 文科省「**獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議**」（第1ラウンド）が開始

2011年 ・ 獣医学教育・モデル・コア・カリキュラムの策定と協力者会議による意見とりまとめ

⇒ **改革工程5本柱提示**により各論へと大きく舵を切る

2012年～ ・ 5本柱に沿った獣医学教育改善・充実具体策の実施（第2ラウンド）



国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程

獣医学教育の改善充実に関する調査研究協力者会議（文科省）2011年提示・2012年改訂



充実した獣医学教育の実施、自律的な教育改善を促す質保証システムの構築

※各大学の取組の成果を検証し、結果を公表するなど、その確実な取組を推進していく必要



☆ 国際水準の獣医学教育の提供



- 獣医学教育改革の歴史
- 獣医学コアカリの策定と位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの策定と位置づけ

獣医学モデル・コア・カリキュラム

東京大学大学院農学生命科学研究科
尾崎 博

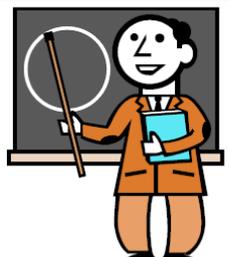
①作成の背景と目的 ②構成や具体的な項目例 ③作成の体制や方法
④作成の際の課題、困難であった点 ⑤活用の方法、効果・成果、課題
⑥コアカリ、獣医学教育改善の今後



① コアカリができた背景 (教育手法への批判)

今までの教育: 科目と単位数が決められているだけ
(後は暗闇の世界)

- 私が教え
- 私が試験問題を作り
- 私が採点し
- 私が合否を決めるのだ!



↓↓↓↓↓↓

客観性と透明性が求められている
古い体質からの脱却

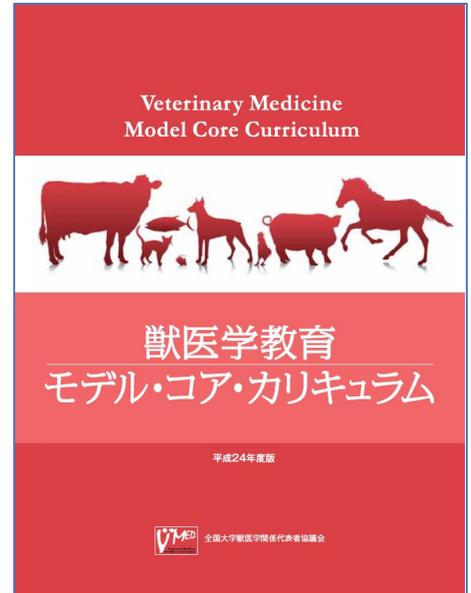
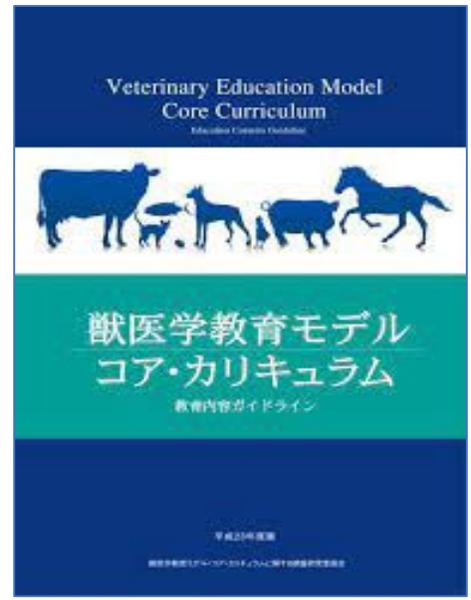
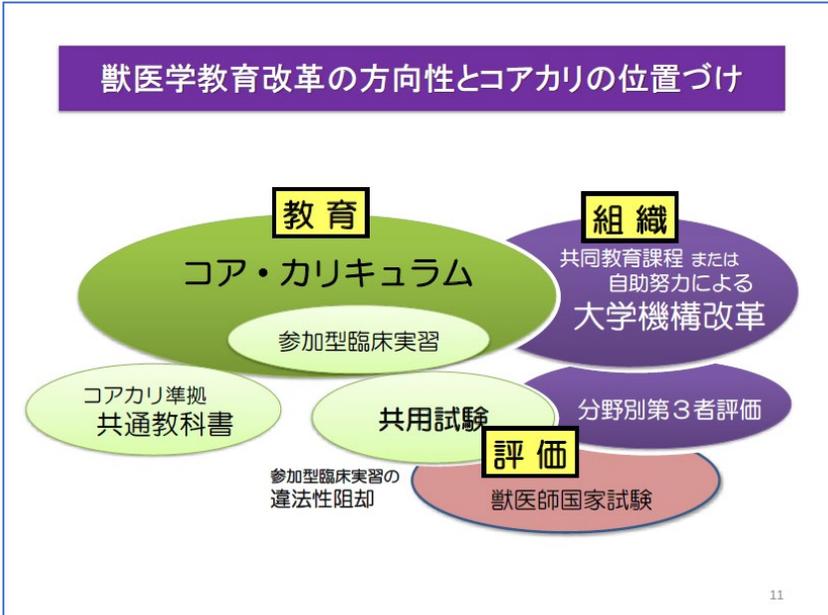
コア・カリキュラム 策定の経緯



ソフト面からの
獣医学教育を改善したい

① コアカリ ⇒ ② 共通テキスト
⇒ ③ 共用試験 ⇒ **参加型臨床実習**

参加型臨床実習: 動物病院などで、実際の病気の動物に触れる実習
(学生が獣医師免許を持たないことへの対処(質保証)が必要【違法性の阻却】)



獣医学教育モデル・コア・カリキュラム

目次

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 緒言…………… 2

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム
平成24年度版について…………… 4

担当者一覧(五十音順) …………… 6

講義科目

導入教育・基礎獣医学教育分野	
1-1 獣医学概論……………	17
1-2 獣医倫理・動物福祉学……………	19
1-3 獣医事法履……………	22
1-4 解剖学……………	24
1-5 組織学……………	27
1-6 発生学……………	30
1-7 生理学……………	32
1-8 生化学……………	36
1-9 薬理学……………	39
1-10 動物遺伝学……………	44
1-11 動物行動学……………	46
1-12 実験動物学……………	49
1-13 放射線生物学……………	52



病態獣医学教育分野	
2-1 病理学……………	57
2-2 免疫学……………	61
2-3 微生物学……………	64
2-4 家畜疾病学……………	68
2-5 魚病学……………	70
2-6 動物感染症学……………	73
2-7 寄生虫病学……………	76

応用獣医学教育分野	
3-1 動物衛生学……………	81
3-2 公衆衛生学総論……………	84
3-3 食品衛生学……………	86
3-4 環境衛生学……………	89
3-5 毒理学……………	91
3-6 人獣共通感染症学……………	93
3-7 疫学……………	95
3-8 野生動物学……………	98

目次

臨床獣医学教育分野	
4-1 内科学総論……………	103
4-2 臨床病理学……………	105
4-3 臨床薬理学……………	107
4-4 呼吸器器病学……………	109
4-5 消化器病学……………	111
4-6 泌尿生殖器病学……………	113
4-7 内分泌代謝病学……………	115
4-8 臨床栄養学……………	117
4-9 神経病学……………	118
4-10 血液免疫病学……………	119
4-11 皮膚病学……………	121
4-12 臨床行動学……………	122
4-13 外科学総論……………	124
4-14 手術学総論……………	126
4-15 麻酔学……………	128
4-16 軟部組織外科学……………	130
4-17 運動器病学……………	133
4-18 臨床腫瘍学……………	135
4-19 眼科学……………	137
4-20 画像診断学……………	139
4-21 産業動物臨床学……………	142
4-22 馬臨床学……………	145
4-23 臨床繁殖学……………	147



実習科目

基礎獣医学教育分野	
1-1 解剖学実習……………	155
1-2 組織学実習……………	158
1-3 生理学実習……………	161
1-4 生化学実習……………	163
1-5 薬理学実習……………	165
1-6 実験動物学実習……………	167

病態獣医学教育分野	
2-1 病理学実習……………	171
2-2 微生物学実習……………	175
2-3 寄生虫学実習……………	178

応用獣医学教育分野	
3-1 動物衛生学実習……………	183
3-2 公衆衛生学実習……………	186
3-3 食品衛生学実習……………	188
3-4 毒理学実習……………	189

臨床獣医学教育分野	
4-1 小動物内科学実習……………	193
4-2 小動物外科実習……………	196
4-3 画像診断学実習……………	199
4-4 産業動物臨床実習……………	200
4-5 臨床繁殖学実習……………	202
4-6 総合実習……………	204

④ 作成の際の課題、困難であった点

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 作成にあたっての基本事項(5項目)

1. 獣医学生が卒業時まで身につけるべき必須の能力(知識・技能・態度)に関する具体的な到達目標を明示。
2. 獣医学専門教育課程6年間で学修すべき 2/3程度の内容とし、残りは各大学がそれぞれの理念に基づいて独自のカリキュラムを組む。
(大学の自由度を尊重)

3. 近年の獣医学の進歩や社会的ニーズを考慮して講義科目として51科目、実習科目として19科目を選択。
(医歯薬の科目横断的コアカリではない)
4. ただし、科目名は例示であり、また単位数も大学が独自に割り振る。**(大学の自由度を尊重)**
5. 共用試験の出題基準、大学の横断的・分野別評価(第三者評価)の基準として使用できる。

獣医学コアカリの特徴: 科目縦断的に作ったこと、さらに獣医学は比較生物学であることから、科目間の重複を原則認めている。

およそ500の重複項目がある
→ 実質的な到達目標の数は $1750 - 500/2 = 1500$
(重複は重要度の証でもあり、学生に重要項目として意識させるという意味もある)

令和元年度版コアカリ（一部修正令和4年）



獣医学教育モデル・コア・カリキュラム

獣医学教育・モデル・コア・カリキュラムはわが国の獣医学教育の共通到達目標です。そのため、その改訂・改定は、獣医学教育の将来にも大きな影響を及ぼすと考えられる重要な作業となります。作業内容を出来る限り公開し、多くの関係者の意見を集約することを目的として本ホームページを立ち上げました。

令和元年度版(改訂)獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの公開(2020年6月22日)

令和元年度の改訂では、時代に即した獣医学教育内容を取り入れるとともに、実習の到達目標を動物福祉へ配慮した内容へ修正しています。また、到達目標は6年間で最低限教えなければならない事項に絞り込こみ、科目間の到達目標の重複も可能な限り少なくしています。一方、**共用試験の範囲は獣医学教育支援機構を中心に検討するべきと判断し、本コアカリには共用試験の範囲を明示していません**。今後は、この獣医学コアカリに沿って共通テキストが改訂され、各大学のカリキュラムも変更されていくこととなります。この獣医学コアカリが学生への教育に有効に活用され、獣医学教育の質向上と社会の要請に応える人材育成に貢献できれば幸いです。

令和元年度版獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの取り扱い

平成24年度版獣医学コアカリと令和元年度版獣医学コアカリは、しばらくの間、併用されることとなります。しかし、今後、共通テキストは、令和元年度コアカリに即して改訂されるとともに、各大学での教育内容も令和元年度版に則した内容へ、漸次、移行していくこととなります。最終的に、共用試験の出題範囲も令和元年度版コアカリへと修正され事となります。

令和元年度版・獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの修正版公開(2022年4月5日)

令和元年度版の公開から2年が経ちましたが、今回、スペルミスや記載の誤り、到達目標の記載順や集約化など、指摘された事項を確認し、修正版として公開することとなりました。今後も学生への教育に有効に活用していただければ幸いです。



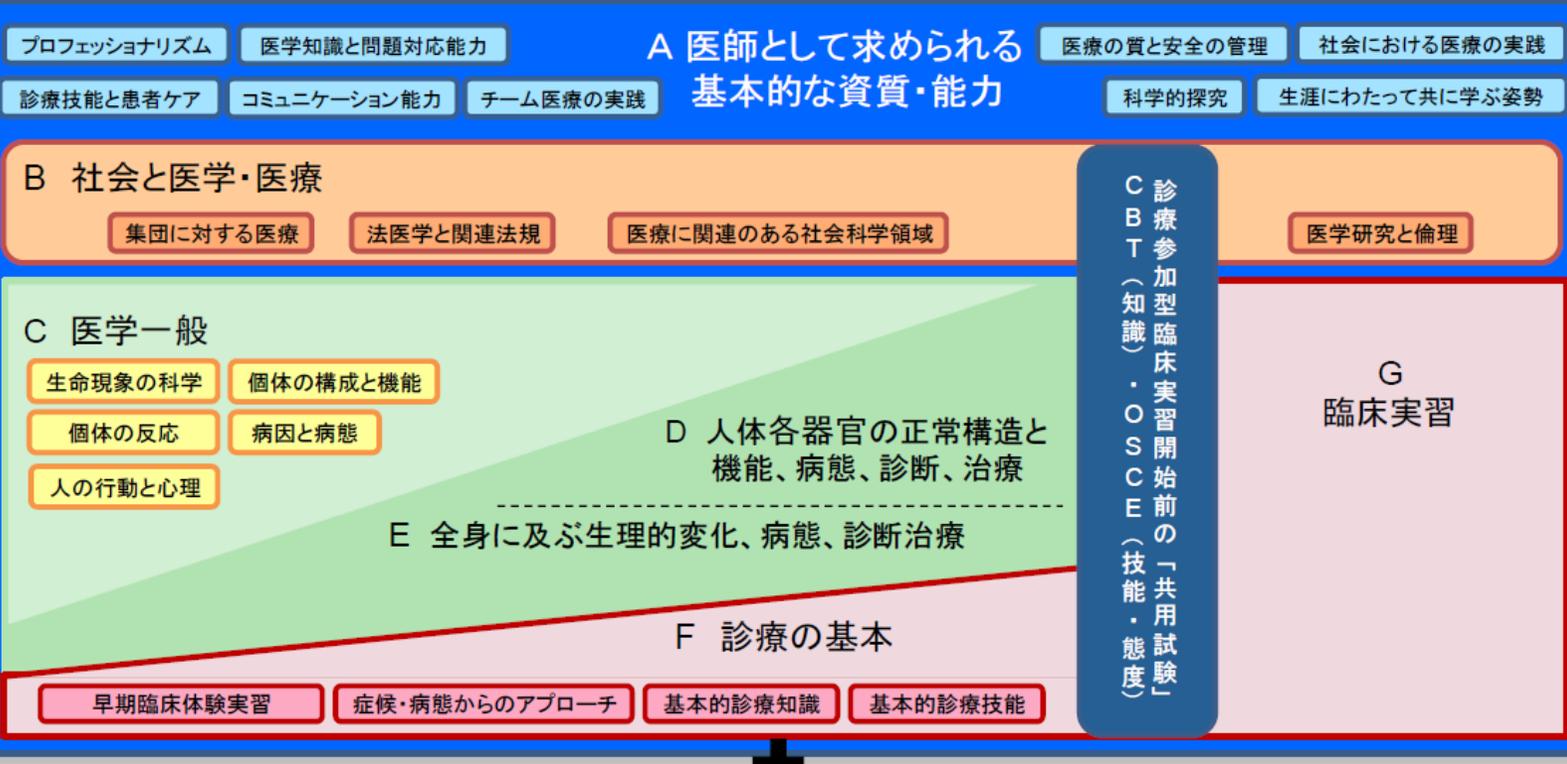
- 獣医学教育改革の歴史
- 獣医学コアカリの策定と位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

医学教育モデル・コア・カリキュラム (2016年度版)

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版) 概要

- 学生が卒業時まで身に付けておくべき、必須の実践的診療能力(知識・技能・態度)を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
- 学生の学修時間数の3分の2程度を目安としたもの
- 「医師として求められる基本的な資質と能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

多様なニーズに対応できる医師の養成



各大学の特色ある独自のカリキュラム

- 各大学が教育理念に基づいて実施する独自の教育内容(教養教育や、学生が自主的に選択できるプログラムを含む)
- 学生の学修時間数の3分の1程度

C-3-3) 生体と薬物
 薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子のレベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を学ぶ。
 C-3-3)-(1) 薬理作用の基本
 C-3-3)-(2) 薬物の動態
 C-3-3)-(3) 薬物の評価

D-5 循環器系
 D-5-4) 疾患
 D-5-4)-(1) 心不全
 ③急性心不全と慢性心不全の診断と薬物療法、非薬物療法(心臓リハビリテーションを含む)を説明できる。

F-2 基本的診療知識
 F-2-8) 薬物治療の基本原則
 診療に必要な薬物治療の基本(薬理作用、有害事象、投与時の注意事項)を学ぶ。
 ④各臓器系統に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。



⑤ 活用の方法、効果・成果、課題

コアカリ年次進行のイメージ (2/3の意味)



講義科目

導入教育・基礎獣医学教育分野

講義科目 1-1	獣医学概論	12
講義科目 1-2	獣医倫理・動物福祉学	14
講義科目 1-3	獣医事法規	16
講義科目 1-4	解剖学	19
講義科目 1-5	組織学	22

病態獣医学教育分野

講義科目 2-1	病理学	51
講義科目 2-2	免疫学	55
講義科目 2-3	微生物学	58

応用獣医学教育分野

講義科目 3-1	魚病学	72
講義科目 3-2	動物衛生学	75
講義科目 3-3	公衆衛生学総論	78
講義科目 3-4	食品衛生学	80

臨床獣医学教育分野

講義科目 4-1	内科学総論	98
講義科目 4-2	臨床病理学	100
講義科目 4-3	臨床薬理学	102
講義科目 4-4	呼吸循環器病学	104

実習科目

基礎獣医学教育分野

実習科目 1-1	解剖学実習	145
実習科目 1-2	組織学実習	148
実習科目 1-3	生理学実習	151

- 獣医学教育改革の歴史と獣医学コアカリの策定
- 獣医学コアカリの位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

OIE: Competencies of Day 1 graduates

1. Specific Competency

- 1) 疫学：
 - ・疫学の応用，情報入手，利用能力，サンプル収集，疫学調査などの能力
- 2) 越境性動物疾病（TADs：高病原性鳥インフルエンザ、牛疫、豚コレラ、口蹄疫など）
 - ・病原体特定，情報入手，サンプル収集能力，規制要件の理解
- 3) 人獣共通感染症（食品由来疾病を含む）
 - ・病原体特定，情報入手，サンプル収集能力，規制要件の理解
- 4) 新興・再興感染症
 - ・新興と再興の理解，届出，再発防止，情報入手
- 5) 疾病予防・管理プログラム（移動の規制、ワクチン接種、治療など）
 - ・監視，事態対応，各種プログラム，予防管理
- 6) 食品衛生
 - ・安全対策，検査，One Healthの理解
- 7) 動物用医薬品
 - ・適切使用，休薬期間，抗菌剤，耐性菌
- 8) 動物福祉
 - ・責任，是正措置，人道的手法
- 9) 獣医関連法と倫理
 - ・規制と規則，業務遂行，リーダーシップ
- 10) 基本的認証手続き
 - ・個体と群管理，検査と監視，診断書作成
- 11) コミュニケーション能力
 - ・情報伝達，同僚との意思疎通

2. Advanced Competency

- 1) 獣医療組織：
 - ・獣医療提供，組織体制構築，国際交流，民間と公共部門，情報入手
- 2) 査定・認証手続き：
 - ・輸出入暗線税評価プロセス，剖検・食品検査プロセス，診断書作成
- 3) 伝染性疾病管理
 - ・サンプル管理，追跡調査，広域調査，移動規制，遺体処理，汚染リスクと検疫
- 4) 食品衛生
 - ・残留試験プログラム，トレーサビリティ，職員の安全性確保
- 5) リスク分析
 - ・リスク評価とリスク分析，分析の利用，最新情報の入手，リスクの伝達
- 6) 研究
 - ・橋渡し研究，学際的研究，仮説の検証
- 7) 国際貿易の枠組み
 - ・WTO，SPS協定，CAC，国際規制，認証プロセス
- 8) 運営管理
 - ・運営と管理，効果的コミュニケーション，最新情報の入手，公用語の習熟

EAEVE : List of subjects and Day One Competences

Introduction

A. 獣医師になるための学習プログラムは以下の教科を含み、以下の Day One Competences を獲得できるようにしなければならない。

B. 技能の構想は知識と技術、態度を統合したものである。技能には技術の獲得だけでなく、関連知識の応用や学習した事柄を様々な環境へ応用できる自信と能力の獲得が求められる。

C. “Day One Competences”は必要最低限の標準であり、開業医や衛生学者、科学者、獣医師国家公務員、動物福祉司、指定獣医師等様々な役割が求められる専門職の獣医師としての出発点である。卒業後に新卒生がどの分野へ進もうとも専門的な能力の向上が求められ、いくつかの役職には卒後トレーニングやEBVSやPhD等の更なる正式な資格が求められる。

D. Day One Competenceを獲得した新卒生は、より経験豊富な同業者から指示を得た方がよい場合以外に、自力で獣医専門職の初歩レベルの仕事や任務を適切にこなし、十分に自信を持って応急処置を行う能力が求められる。新卒生は、いくつかの手術を行う機会が多い方がよい。先輩や上司からの支援や指示もあるとよい。

E. 獣医学教育機関は責任を持って学生のDay One Competenceを向上させ、学生が卒業するまでにこの技能を獲得することを保証しなければならない。獣医専門的な技能訓練のためには学外での教育機会も与えられ、学生はそこでも応用的な技能訓練ができるように援助される。

F. Day One Competenceは以下の EU 指令や獣医専門資格に関連する規則と提言の同意の下に決定される。

1. Day 1 competences

- 1.1 患者や依頼者、社会、環境に関する獣医師の倫理的・法的責任を理解する。
↓
- 1.7 獣医師が働く経営状況や感情を理解する。
↓
- 1.18 適切な医療計画を立て、利用できる資源を考慮して患者のために治療を施す。
↓
- 1.29 無菌手術を正確に行う。
↓
- 1.31 痛みを分析し、管理する。
↓
- 1.33 系統的、全般的な死後解剖を行い、観察した事柄を記録し、組織標本を作製、保管、運搬する。
↓
- 1.35 産業動物の死後解剖を含む食品と餌の検査と食品技術の分野の検査を行う。

2. Underpinning knowledge and understanding

効果的に専門的業務を行うために生物や動物科学、社会科学、動物産業に関連する法律の**基礎的知識と理解**が必要

2.2 獣医科学の基礎研究と応用研究の方法と貢献
↓

2.5 全ての一般家畜種に起こる一般的な病気や障害の病因や発病、臨床徴候、診断、治療
↓

2.12 動物福祉に関連する専門倫理の決断に重要な倫理的理論等の獣医師が考慮すべき倫理的枠組み。



AVMA : Outcomes Assessment

獣医学部学位プログラムの成果は、計測、分析、およびプログラム改善のために考慮されなければならない。**新卒者は、卒業時に、自立して一次診療を提供するための基本的な科学的知識、技能、価値観を有していなければならない。**学生の成績は、成果評価に反映されなければならない。9つのコンピテンシーのうち1つ以上の能力を実証していない学生を救済するためのプロセスが確立されていなければならない。

獣医学教育機関は、教育プログラムのコンピテンシーと学習目標が、関連する初級レベルのコンピテンシーにつながることを確認するために、最近の卒業生の成果データを収集するシステムを導入しなければならない。

大学は、学生が以下のコンピテンシーを達成したかどうか、評価の正確性を保証するために、文書化とともに観察し、形成的・総括的に評価する体制を備えていなければならない：

1. 包括的に患者を診断（問題解決）する能力、診断用検査の適切な実施、および記録管理。
2. 適切な患者紹介を含む包括的な治療計画の立案
3. 麻酔と疼痛管理、患者の福祉
4. 基本的な手術手技と症例管理
5. 基本的な医学のスキルおよび症例の管理
6. 救急・集中治療症例の管理
7. 健康増進、バイオセキュリティ、動物由来感染症を含む疾病の予防と管理、食品安全の原理の理解
8. 倫理的かつ専門的な行動；クライアントの多様性と個々の状況が患者のヘルスケアにどのような影響を与えうるかについての理解するためのコミュニケーションスキルを含む
9. 獣医学に関連する新しい情報および研究結果の批判的分析

RVC : Day One Skills

1 Underlying Principles	2 Professional Practice	3 Evaluation of Animals and their Care	4 Clinical Decision Making	5 Care and Treatment
A Basic Science	A Communication	A Handling and Restraint	A Obtaining and Handling Samples for Diagnosis	A Emergency Care and Treatment
B Clinical Science	B Legal/Professional/ Ethical Practice	B Gathering Information	B Using Laboratory Equipment and Performing Standard Tests	B Drug and Fluid Administration
C Social and Economic Aspects of the Animal Industries	C Reflective Practice and Lifelong Independent Learning	C General Examination / Evaluating Care of animals	C Using Diagnostic Imaging Equipment and Ancillary Diagnostic Tools	C Anaesthesia
D Research Philosophy and Methods	D Management of Veterinary Environment	D System Specific examination	D Evaluating Findings from Diagnostic tools	D Surgery
E Evidence-Based Problem Solving and Reasoning			E Reaching Diagnosis and Formulating Treatment Plan	E Euthanasia
			F Conducting Post Mortem Examination	F Husbandry and Welfare
				G Nursing

- 獣医学教育改革の歴史と獣医学コアカリの策定
- 獣医学コアカリの位置づけ
- 他教育分野と獣医学コアカリの違い
- 海外でのコアカリ・Day One Competencies
- 今後の獣医学コアカリの方向性

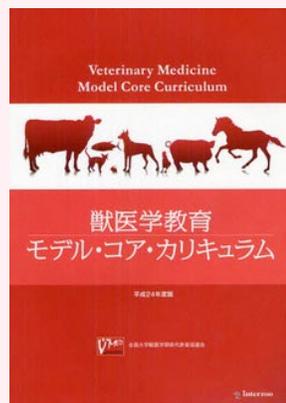
現在の獣医学教育モデル・コア・カリキュラム

導入教育・基礎獣医学教育分野

獣医学概論  / 獣医倫理・動物福祉  /
獣医事法規  / 解剖学  / 組織学  /
発生学  / 生理学  / 生化学  /
薬理学  / 動物遺伝育種学  /
動物行動学  / 実験動物学  / 放射線生物学 

応用獣医学教育分野

動物衛生学  / 公衆衛生学総論  /
食品衛生学  / 環境衛生学  / 毒性学  /
人獣共通感染症学  / 疫学  / 野生動物学 



講義科目 51
実習科目 19

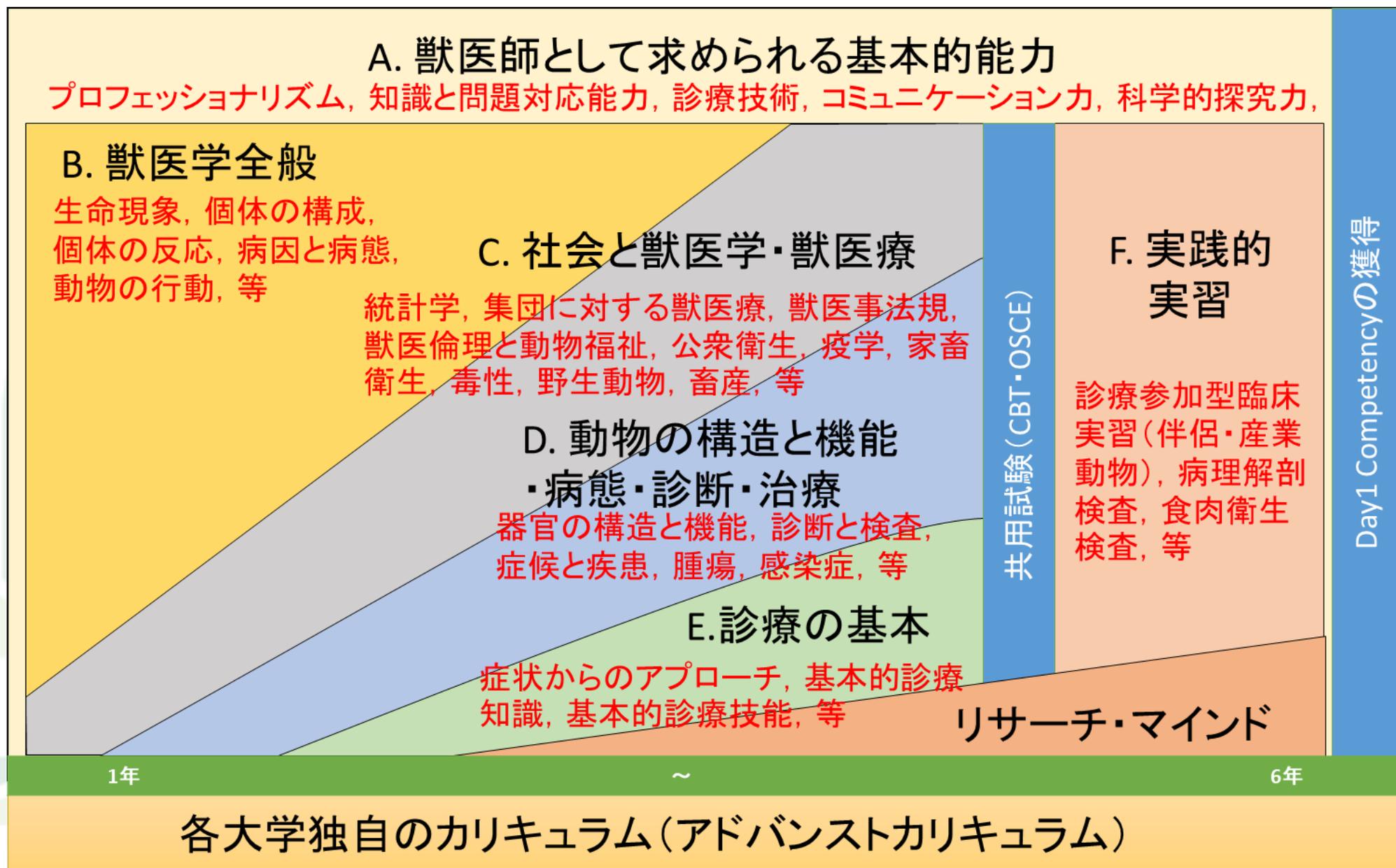
病態獣医学教育分野

病理学  / 免疫学  / 微生物学  /
家禽疾病学  / 魚病学  / 動物感染症学  /
寄生虫病学 

臨床獣医学教育分野

内科学総論  / 臨床病理学  /
臨床薬理学  / 呼吸循環器病学  /
消化器病学  / 泌尿生殖器病学  /
内分泌代謝学  / 臨床栄養学  /
神経病学  / 血液免疫病学  / 皮膚病学  /
臨床行動学  / 外科学総論  /
手術学総論  / 麻酔学  /
軟部組織外科学  / 運動器病学  /
臨床腫瘍学  / 眼科学  / 画像診断学  /
産業動物臨床学  / 馬臨床学  / 臨床繁殖学 

統合型獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの検討

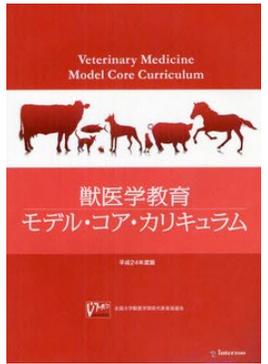


現行コアカリと統合型コアカリの関係

<p>導入教育・基礎獣医学教育分野</p> <p>獣医学概論 / 獣医倫理・動物福祉 / 獣医法規 / 解剖学 / 組織学 / 発生学 / 生理学 / 生化学 / 薬理学 / 動物遺伝育種学 / 動物行動学 / 実験動物学 / 放射線生物学</p>	<p>病態獣医学教育分野</p> <p>病理学 / 免疫学 / 微生物学 / 家禽疾病学 / 魚病学 / 動物感染症学 / 寄生虫病学</p>
<p>応用獣医学教育分野</p> <p>動物衛生学 / 公衆衛生学総論 / 食品衛生学 / 環境衛生学 / 毒性学 / 人獣共通感染症学 / 疫学 / 野生動物学</p>	<p>臨床獣医学教育分野</p> <p>内科学総論 / 臨床病理学 / 臨床薬理学 / 呼吸循環器病学 / 消化器病学 / 泌尿生殖器病学 / 内分泌代謝学 / 臨床栄養学 / 神経病学 / 血液免疫病学 / 皮膚病学 / 臨床行動学 / 外科学総論 / 手術学総論 / 麻酔学 / 軟部組織外科学 / 運動器病学 / 臨床腫瘍学 / 眼科学 / 画像診断学 / 産業動物臨床学 / 馬臨床学 / 臨床繁殖学</p>



講義科目 51
実習科目 19



医学・歯学分野の例にならって、学科目にとられない包括的なモデル・コア・カリキュラムを策定しようとの議論もありましたが、新規に立ち上がる学科目も多いこと、施行後の利用価値が限定されることなどから、科目ごとの作業としました。



- 現行コアカリの長所・短所
- 統合型コアカリの長所・短所
- 現行コアカリを基盤に構築されている獣医学教育体制を考える必要性
- 継続的な獣医学教育改善の必要性

獣医学コアカリ 日本が多様な獣医師職域に対応するとともに世界標準となる獣医学教育を実践する

A. 獣医師として求められる基本的能力
プロフェッショナリズム, 知識と問題対応能力, 診療技術, コミュニケーション力, 科学的探究力, 等

B. 獣医学全般
生命現象, 個体の構成, 個体の反応, 病因と病態, 動物の行動, 等

C. 社会と獣医学・獣医療
統計学, 集団に対する獣医療, 獣医法規, 獣医倫理と動物福祉, 公衆衛生, 疫学, 家畜衛生, 毒性, 野生動物, 畜産, 等

D. 動物の構造と機能・病態・診断・治療
器官の構造と機能, 診断と検査, 症候と疾患, 腫瘍, 感染症, 等

E. 診療の基本
症状からのアプローチ, 基本的診療知識, 基本的診療技能, 等

F. 実践的実習
診療参加型臨床実習(伴侶・産業動物), 病理解剖検査, 食肉衛生検査, 等

共用試験 (CBT・OSCE) | Day1 Competencyの獲得 | 国家試験

1年 ~ 6年

各大学独自のカリキュラム (アドバンスカリキュラム) 20190126ver



- 獣医学教育改革の歴史と獣医学コアカリの策定

獣医学教育改善を常に行ってきた。

- 獣医学コアカリの位置づけ

共用試験、共通教科書、教育評価等の基盤

- 他教育分野と獣医学コアカリの違い

医歯学は包括的、獣医学は科目単位

- 海外でのコアカリ・Day One Competencies

D1Cを基準に大きな括りとして構成

- 今後の獣医学コアカリの方向性

科目単位・包括的コアカリの関係と方向性を検討

- 日本獣医学会：
獣医学教育改革委員会
- 全国協議会：
獣医学教育改善検討委員会
- 日本獣医師会

- AAVS(アジア獣医科大学協議会)
- FAVA(アジア獣医師会連合)
Joint Education Committee